

## 参考:用語解説

あ行	
ウォークアブル	街路空間を車中心から人中心の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使い、人々が集い憩い多様な活動へと繰り広げられる場とすること。都市に活力を生み出し、持続可能な社会の実現が期待される。
SDGs (持続可能な開発目標)	すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指す。
お山かけ	真山・本山・毛無山の三山を縦走するもの。
か行	
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味し、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味している。
かんよう 涵養緑地	水資源の貯蓄、洪水の緩和、水質の浄化など、雨水の川への流出量を平準化し、美味しい水を作り出す働きを持つ森林のこと。また、土砂の流出や崩壊を防止し、水供給等において重要な役割を担うダムの堆砂を防ぐ働きもある。
既存ストック	一定期間内に流れた量をフロー (flow) といい、それに対して一時点において貯蔵されている量をストック (stock) という。ここでは、現時点において、これまでに整備してきた道路や橋などの都市施設全体のことを指す。
共助	地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。
公共公益施設	住民の生活のために必要な公共サービス施設の総称。公益施設は一般的には教育施設、官公庁施設、医療施設、コミュニティ施設等を示すのに対し、公共施設はその内容の範囲が法令により定められている。例えば、都市計画法では道路、公園、下水道、緑地、広場、河川、運河、水路、消防の用に供する貯水施設と規定されている。
交流人口	その地域に訪れる (交流する) 人口のこと。その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、観光、レジャーなどがある。
国立公園	国立公園の景観に準ずる自然公園を指し、現在日本各地に 57 ヶ所ある。環境大臣が指定した公園で、自然公園法に基づき都道府県が維持管理を行う。
骨格道路	都市内において骨格的な道路網を形成する道路のこと。
個別処理区域	建物が点在している地域において、各戸に浄化槽を設置し、家屋ごとに污水处理をする区域のこと。
さ行	
再生可能エネルギー	有限で枯渇の危険性を有する石油・石炭などの化石燃料や原子力と対比して、自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称。具体的には、太陽光や太陽熱、水力 (ダム式発電以外の小規模なものをいうことが多い) や風力、バイオマス (持続可能な範囲で利用する場合)、地熱、波力、温度差などを利用した自然エネルギーと、廃棄物の焼却熱利用・発電などのリサイクルエネルギーを指し、いわゆる新エネルギーに含まれる。

サイン計画	不特定多数が利用する公共性の高い標識・地図・案内誘導版等において、設置目的を踏まえ、書体、文字の大きさ、ピクトグラム、色彩、多言語の表記、維持・管理等を踏まえてデザインすること。
産学官金の連携	新技術の研究開発や、新事業の創出を図ることを目的として、大学などの教育機関・研究機関と民間企業、金融機関が連携すること。
市街化区域	都市計画区域のうち、既に市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先かつ計画的に市街化を図るべき区域のこと。(都市計画法第7条)
市街化調整区域	都市計画区域のうち、市街化を抑制すべき区域のこと。この区域内では、開発行為や建築行為が原則として禁止されている。(都市計画法第7条)
自助	災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ること。
市民協働	市民と行政が地域の課題に、ともに手を携え「住んで良かった、住み続けたい」と市民一人ひとりが、実感できる暮らしやすいまちづくりに取り組むことで、様々な地域課題の解決や公共サービスの提供を可能とし、豊かで活力ある地域社会の実現を目指しているもの。
集合処理区域	建物が密集している地域において、下水道管及び処理場を整備し、汚水をまとめて処理する区域のこと。
新エネルギー	風力、太陽光、地熱(バイナリー発電に限る)、中水力(1000kW以下)、バイオマスなど自然環境から得られ、再生可能なエネルギーのうち、その普及のために支援を必要とするものこと。
生活圈	人が行動する範囲・地域を指し、日常生活とその延長(遠出しない余暇等)を営む空間のこと。空間の大きさは、個人の考え方や移動の自由、生活スタイルなど、圏域を設定する目的で、その定義は異なり、一律には定義はできない。
<b>た行</b>	
建て詰まり	建築物の密度が高まるにつれて空地が減少し、それ以上新たに建築物を建てると安全性、健康性、快適性の面から環境が阻害される状況のこと。
地域	町内や元学区、小学校区など、適切なまとまりのある空間の範囲のこと。複数の行政区にわたるものまで考えられる。
地域コミュニティ	地域住民が、生活している場所で住民相互の交流が行われている地域社会、あるいはそのような住民の集団のこと。行政、地域を越えた連携などを基盤としたその他のコミュニティと区別する。
地域資源	有形・無形に関わらず、地域特有の民俗、伝統芸能、自然、文化、歴史、食、人材等で、その地域に暮らす住民にとっての「誇り」や「豊かさ」、来訪者にとっての「癒し」や「非日常」の価値となるもの。
長期未整備	ここでは都市計画決定されてから長期間経過したのに、整備を終えていない都市計画施設を指す。
長期未着手	ここでは都市計画決定されてから長期間経過したのに、事業化の目処が立っていない都市計画施設を指す。
津波浸水想定区域	津波により浸水被害が生じると想定される区域のこと。

低未利用地	適正な利用が図られるべき土地であるにもかかわらず、長期間にわたり利用されていない「未利用地」と、周辺地域の利用状況に比べて利用の程度（利用頻度、整備水準、管理状況など）が低い「低利用地」の総称。
デマンド型乗合タクシー	路線バスとタクシーの中間的な位置づけの交通形態。自宅から目的地までの輸送を、固定の運行ダイヤにより、事前の予約があった場合に実施する。一つの便に複数の予約者がいる場合は、乗合での利用となる。
特定用途制限地域	都市計画法に規定された「地域地区」のひとつで、良好な居住環境や営農環境を守るため、環境を悪化させるおそれのある建築物等が建てられないように、その地域において建築物の用途の制限を定めるもの。
都市インフラ	都市の経済活動を支える最も基本となる施設で、道路・鉄道等の交通施設、公園、上下水道、電気・ガス等のエネルギー関連施設などのこと。
都市機能	都市での人々の活動を支える様々な機能（商業機能、産業機能、業務機能、文化交流機能など）の総称。
都市計画	都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する計画であり、農林水産業との健全な調和を図りつつ、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を確保すべきこと並びにこのためには適正な制限の下に土地の合理的な利用が図られるべきことを基本理念としている。（都市計画法第2条、4条）
都市計画区域	都市計画法という法律によって、都道府県知事や国土交通大臣が指定するエリアで、建築物の立地をコントロールするもの。「市街化区域」と「市街化調整区域」、「非線引き区域」に分けられる。都市計画区域の他には、「都市計画区域外」と「準都市計画区域」がある。
都市計画区域マスタープラン	都市計画区域の整備、開発及び保全の方針のこと。都市計画法に基づき、都道府県が広域的見地から定める都市計画の基本的な方針。
都市計画マスタープラン	都市計画法に基づき、都市計画区域マスタープラン等に即して定める、区市町村の都市計画の基本的な方針のこと。
都市施設	円滑な都市活動を支え、市民の利便性の向上、良好な都市環境を確保するうえで必要な施設のこと。 都市計画法に定める施設は都市計画施設ともいわれ、道路は都市計画道路、公園は都市計画公園という。（都市計画法第11条）
土地の区画形質の変更	一般的には「土地の区画形質の変更」には次の3種類の行為が含まれる 1) 土地の「区画」の変更 土地の区画を形成する公共施設（道路・水路など）を新設・廃止・移動することにより、土地の「区画」を変更すること。 2) 土地の「形」の変更 土地の盛土・切土により、土地の形状を変更すること。 3) 土地の「質」の変更 宅地以外の土地（農地・山林など）を、宅地にすること。
<b>は行</b>	
ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。

バリアフリー	高齢者や障害者が社会生活を送るうえで、障壁となるものを取り除くこと。当初は、道路や建物の段差や仕切りをなくすことをいったが、現在は、社会制度、人々の意識、情報の提供等に生じる様々な障壁を含め、それらを取り除くこと。
PPP/PFI	「PFI（Private Finance Initiative：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間資金、経営能力、技術的能力を活用して行う手法。民間資金、経営能力、技術的能力の活用により、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業についてPFI手法で実施する。PFIの導入により、国や地方公共団体の事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指す。
ま行	
まち育て	“まちを大きくすること”から、“つくったものを上手に使い、育て続ける”こと。
や行	
遊休地	何の目的にも使われていない土地、使う予定のない土地を指す。
優良農地	一団のまとまりのある農地や、農業水利施設の整備等を行ったことによって生産性が向上した農地など良好な、営農条件を備えた農地を指す。
ユニバーサルデザイン	年齢、性別、国籍、個人の能力などに関わらず、はじめからできるだけ多くの人が利用可能なように、都市や環境をデザインすること。
用途地域	都市計画に基づいて計画的に市街地を形成する目的で、建築される建物の規模や用途を制限するために、都市計画法に基づいて指定されるエリアを指す。
ら行	
ライフサイクルコスト	建物のライフサイクルに要する総費用。建物にかかる費用は建設費だけでなく、日常の保守、修繕費用、何年かごとの大規模な改修費用等建物を維持するための費用は、建設費の何倍にもなるため、適切な保全により、ライフサイクルコスト（LCC）を必要最小限に抑えることが重要になる。
リノベーション	建築・不動産（公共空間も含む。）の遊休ストックを活用して、対象となる建築・不動産の物的環境を改修等によって改善するだけでなく、当該建築・不動産に対して新しいライフスタイルの提示、新産業や雇用の創出、コミュニティの再生、エリアへの波及効果などの新たな価値を同時に組み込むこと。
リフォーム	経年劣化によって老朽化した住まいを改修し、新築当初の状態に戻す工事のこと。具体的には、壁紙やクロスの貼り替え、雨漏り修理、外壁の塗り替え、キッチンやトイレなどの設備交換などを指す。
6次産業化	1次・2次・3次それぞれの産業を融合することにより、新しい産業を形成しようとする取組みのこと。生産者（1次産業者）が加工（2次産業）と流通・販売（3次産業）も行い、経営の多角化を図ること。
わ行	
ワークショップ	参加者が主体性をもって参加するイベントのこと。具体的には、目的別のプログラムや与えられた課題を実際に体験することで学習できる自主的な教育の場とされている。ワークショップの特徴は、ただ知識を得るだけでなく、参加者同士の意見に耳を傾けることで、幅広い層の考えに触れられる点である。これにより、参加者は新しい視点やアイデアを得ることができる。